

COLUMN

PIANC YP-Com(若手技術者委員会)の 取り組みについて

国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域 主任研究官
(PIANC YP-Com)

伴野 雅之 (banno-m@p.mpat.go.jp)

日建工学株式会社 国際事業部 係長
(PIANC YP-Com)

吉塚 尚純 (yoshizuka@nikken-kogaku.co.jp)

はじめに

PIANC YP-Com (Young Professional Commission: 若手技術者委員会) は40歳以下の若手技術者(以下、単に若手と呼ぶ)の技術向上や交流促進を目的とした委員会であり、2006年に設立され、2019年時点で36ヶ国の参加がある。YP-Comの面白い特徴として、YP-Comの参加者が中心となって自国の若手を集めたYPグループが組織されており、若手の活動を促進するための技術交流会等を実施している。我が国でも、「港湾」というテーマのもと、国土交通省、研究機関、港湾運営会社、建設会社、コンサルタント、メーカーなどから約60名の若手が集まる、非常にユニークなグループとなっている。

主な活動内容

日本のYPグループでは、通常年2回の会合を開催しており、本年は春に名古屋、秋に鹿児島で港湾関連の現場見学と技術セミナーを実施した(写真)。このような技術交流の場を定期的に設けることで、普段の業務と異なる事業や技術に触れ技術者としての研鑽を深めるだけでなく、国内の港湾業務に従事する若手のネットワーク(横のつながり)の構築・維持を目指している。

また、国際的な技術セミナー等への積極的な参加も促している。YP-Comでは2年に1回の技術見学会(シンガポール、2019年)やアジア・太平洋セミナー(韓国、2018年)などを開催している。また、先に神戸で行われたPIANCの年次総会において、並行して日本の若手を中心となってYP-Comセミナーを実施した。これらのイベントには世界各国から

の参加があり、海外の港湾事業や最新技術についての知見を広める場としてだけでなく、第一線で港湾業務に携わる海外の若手技術者とのネットワーク構築の場として利用されている。

港湾業界の若手プラットフォームを目指して

以上のように書くと堅苦しい会のように受けとられるかもしれないが、非常にフランクな会であることを強調しておきたい。前述した神戸のセミナーにおいては、交流イベントとしてフットサル(日本チーム対国際チーム)を行ったほか、定期的な懇親会を実施するなど会員相互の積極的なコミュニケーションを図っており、雰囲気はとても明るい。なお、YPグループへの加入はPIANCの法人会員もしくは個人会員であれば、特に別途、会費等は不要であり、国際業務に興味のある若手の方は気軽にご連絡いただければ幸いである。

今後、日本のYPグループは港湾業界を横断する「若手プラットフォーム」を目指し、国内の若手が積極的に海外と向き合い、将来国際舞台での活躍できるよう後押しをする「場」を提供していきたいと考えている。この若手の活動がPIANCにおける日本のプレゼンスを向上させるだけでなく、ひいては10～20年後に海外プロジェクト受注の競争力を高める「オールジャパン」の基礎づくりに繋がると確信している。ぜひPIANC YPグループへの参加を一つのきっかけにいただければと思う。



名古屋港飛島ふ頭地区見学
(協力: 国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所、みらい建設工業株式会社)